

# 神は純粋な心を愛する

グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ

## 抜粋5

『マハーバーラタ』の中でこう言われています。

6種類の間人は常に惨めである。

他人をねたむ者、

他人を憎む者、

不満を抱く者、

他人の財産に頼って暮らす者、

疑い深い者、

そして怒る者、である。

現実には、怒りが他の五つの状態を創り出します。このホールの中にも、世界中にも、地球に平和をもたらしたいと思っている人が大勢います。実に多くの人々がダルシャンで世界平和のシンボル、すなわち白い旗や特定の花をささげに来ます。事実、私たちが昨年春メキシコへ行った時、ある団体の人たちがイブニング・プログラムにやって来ました。彼らは、自分たちを平和維持のネットワークと自己紹介し、特別のシンボルをささげ、特別の歌を歌いたいと言いました。多くの人たちと同じように、彼らは世界に平和をもたらしたいのです。ここで少し考えてみてください。自分が怒りに満ちた考えを抱いている時、どうして世界に平和をもたらすことができるでしょうか。

あなたの発言が辛辣(しんらつ)な時、どうして他人から優しさを期待できるでしょう。あなたが古い恨みにしがみついている時、どうして他人が心を開いてくれると期待できるでしょう。あなたはいつも陰では意地悪なのに、どうして他人に信じてもらえると期待できるでしょう。あなたは訳もなくすぐかっとなるのに、どうして他人が親切にしてくれると期待できるでしょう。あなたは他人のやることすべてに攻撃的なのに、どうして他人から無邪気に愛されると期待できるでしょう。あなたはいつも気難しいのに、どうして他人に信頼されると期待できるでしょう。

怒りがどれだけ多くの形を取るか分かりますか。常にいらいらしていること、腹立たしさ、いら立ち、敵意、不機嫌、ぶっきらぼう、爆発、激怒、恨みを抱くこと——ちよつと 2、3 の例を挙げてみただけです——これらはすべて怒りの異なる様相です。

基本的には、怒りとは、自分の思い通りにするために、自分自身や他人に仕掛ける策略です。それについて、あなた自身の人生の中で考えてみてください。他人の人生ではありません。他人の人生は放っておきなさい。あなた自身の人生の中で、あなたはいつ怒りましたか。なぜ怒りましたか。どのように怒りましたか。怒りを何に利用しましたか。その結果はどうでしたか。

私たちは皆、子どもの時に始めますね。自分の思い通りにいかないと怒ります。子どもが怒るとすぐ、両親はこう言います。「ああ、分かった、分かった。何でも好きなようになさい…」

すると子どもは思います。「ああ、うまくいった」



© 2022 SYDA Foundation®. 著作権所有。